

留学報告書
～人生一番の転機～

ジョージ・ブラウン大学
外国語学部（中期）

私は、今回の留学という経験が私のこれまでの人生の中で一番の転機になったと感じています。まず初めに、留学は私の幼少期の頃からの夢でした。きっかけは、私の父が海外出張で 20 カ国以上の国に行ったことがあり、帰国するたびに、私にその国のお土産をくれたり、その国の観光地や文化について話してくれたりしていたことです。それらの父からの話を聞いたたびに、次第に自身の視野を広げるために海外で生活してみたいと思うようになりました。父がこれまでに行った国の中で、特によく私に勧めてきた国がカナダでした。父も十数年前にトロントで生活したことがあり、トロントは世界で見ても特に移民を多く受け入れている都市で、様々な国の文化や言語を互いに理解し尊重しあう非常に素晴らしい都市であると教えてくれました。その影響で、いつか絶対にトロントに行くという目標ができ、英語の勉強や海外の文化に興味を持つようになりました。

その後、名古屋学院大学に入学してから、留学先にトロントがあることを知り、必ずトロントのジョージ・ブラウン大学への内定を獲得できるように、大学の講義や TOEFL の勉強に励みました。結果として公費交換留学生としての内定を得ることはできませんでしたが、私費交換留学生として、ジョージ・ブラウン大学への内定が決まった際には、非常に嬉しかったことを覚えています。しかし、海外で生活することは初めてだったので、留学に対して様々な不安もありました。現地の文化に適応することはできるのか、クラスに馴染むことはできるのか、ネイティブと問題なく会話することはできるのかなど、常に悩みで頭がいっぱいになりましたが、共に留学する友人や以前にジョージ・ブラウン大学へ留学していた先輩からアドバイスをもらったおかげで、悩みを解消して、万全の準備をして留学に臨むことができました。

そして、遂に待ちに待った出発当日を迎えました。14 時間という長時間のフライトの影響で疲れはありましたが、トロントのピアソン国際空港に到着した瞬間、これから私を待っている新しい環境に対する期待に胸を膨らませました。空港に到着後、ホームステイ先に移動しましたが、ホストファミリーとルームメイトが温かく僕を迎え入れてくれてとても嬉しかったことを覚えています。初めて家族以外の人々と生活する機会だったので、少し不安でしたが、彼らは僕のことをまるで本当の家族のように扱ってくれました。

トロントでの生活が始まってからジョージ・ブラウン大学での授業が始まるまでの 1 週

間、ルームメイトはホームステイ先の周辺の建物や主要な観光スポットを案内してくれました。既に幼少期の頃にアメリカに旅行に行ったことがありましたが、同じアメリカ大陸にも関わらず、父が話していたように、トロントには様々な人種の人々が街中にいることに驚きました。世界中から移民が訪れている影響で、様々な国の伝統料理を本場の味で楽しむことが出来たり、チャイナタウンやコリアンタウン、リトルイタリーなどの移民居住区があったりと、1つの国の中で、何か国もの異文化を体験することが出来ました。英語の発音やアクセントも人種によって異なっている点も興味深かったです。ルームメイトが案内してくれた場所の中で特に印象に残っている場所が、トロント・アイランドです。トロント・アイランドはトロントの中心地から船で10分程の距離にある小さな島で、サイクリングやカヌーなどのレジャーを楽しめる現地の人々にも人気の場所です。私たちはそこでサイクリングと日光浴を楽しんだのですが、自然の景色と相まってとてもリラックスすることが出来ました。

そして、1週間トロントの観光スポットを楽しんだ後、ジョージ・ブラウン大学での授業が始まりました。ジョージ・ブラウン大学では、ESLと呼ばれる英語が第一言語ではない生徒が共に英語を学習するプログラムがあり、クラスには様々な国籍の生徒が居ました。元々私は人見知りだったので、授業が始まった当初は友人を作ることが出来るのかとても不安でしたが、私と同じ日本人やアジア出身のクラスメートが私に優しく話しかけてくれたおかげで、すぐに友人を増やすことが出来ました。担任の先生も非常にフレンドリーで、まだ英語が完璧ではない私たちに対して、優しい英語で話してくれました。こうして授業が始まったのですが、ジョージ・ブラウン大学の授業スタイルは、名古屋学院大学の英語の授業と全く異なるものでした。それは生徒に積極性を求める点です。通常、大学の授業では指示されたことを指示通りに生徒が行いますが、ジョージ・ブラウン大学の授業では、自身で考え、仲間と協力する力を求められたので、自身の英語スキルを格段に伸ばすことが出来る環境が整っていました。その授業のおかげで、私は以前まで苦手だったスピーキングの力が付きました。例えば、授業内で分からないことがあった際に、クラスメートや先生に自身の英語で伝える必要があったため、自然と積極的に英語で自分の意見を伝えることが出来るようになりました。

学校での生活に慣れてきた頃、学校で仲良くなった友人たちと様々な経験をしました。友人とナイアガラの滝に行ったり、スポーツ観戦をしたりと、普段日本では出来ないような経験をしました。友人たちと遊ぶ中で英語を話すことは、授業内で英語を話すことよりも、会話に必要なボキャブラリーが多かったのが難しかったように感じました。しかし、私よりもスピーキングが得意な友人が頻繁に単語やスラングを教えてくれたおかげで、日常会話でも様々な意思表示が出来るようになりました。他には、留學生活の中盤に友人たちと旅行をしたことも忘れることが出来ません。トロントから飛行機で2時間ほどの距離にあるケベック州では、トロントと言語も街並みも全く異なっていました。カナダ国内でもこんなに文化

に違いがあることを知った際は、カナダの歴史は非常に奥が深いと感じました。

最後に、トロントに来てから私の性格が変化したと感じています。留学以前は、内気で積極性のない性格でしたが、トロントで多くの人々と関わりあう中で、次第に積極的に自身のやりたいことを行動に移すことができるようになりました。留学は、英語のスキルを伸ばすだけでなく、人としても成長させてくれる貴重な経験であると再確認することが出来ました。この経験を生かして、将来は多くの人とコミュニケーションを取りながら、人の役に立てる存在になりたいです。

